

私たちの願う教育を実現するために 組織拡大も含めて、全力を挙げてとりくみます。

高知県教組第102回定期大会 大会宣言

私たちは、今の時期、次の三つの観点から重要な時期だと考えています。

一つ目は、教育現場の改革が待ったなしということです。財界に役立つ人材育成を押しつける一方で金をかけない今の教育行政によって、教職員は疲弊すると同時に、全国的に教員志望者が減っています。その結果、病休や産育休で先生が休み始めても代替教員を配置することが出来ない「教室に先生がいない」状態が多数起こり、学校教育が崩壊寸前です。にもかかわらず、長時間過密労働の解消にはつながらないという問題のある給特法「改正」＝教職調整額10%への引き上げで誤魔化そうとしています。引き上げる財源は、他の手当（例えば、特別支援教育対象の「給与の調整額」）を削減することで生み出す方向であるなど、言語道断です。現場の管理体制を強める「主務教諭」の導入の方向も問題です。残業代を支給する等の長時間過密労働を解消させる施策を行う・持ち時数の制限を設ける・教職員定数や学級定数を根本的に見直すなど、給特法の再改定も含めて、教育政策の大転換が急務の課題です。

二つ目は、国民の願いを実現する政治の実現を求めていかねばならないということです。昨秋の総選挙の結果、過半数割れで少数与党に追い込まれた石破自公政権は、それでも従来の国民無視の政治を続けています。アメリカ言いなりの大軍拡の推進、今までの慣習さえ無視されたアメリカ・トランプ政権の関税による脅しへの無策ぶり、物価高騰などが続く中で有効な手を打てない国内政治、選択的夫婦別姓制度の導入など以前に自分が前向きな姿勢を示していた政策さえ実行に移さない変容ぶり等、国民の願いとはかけ離れた状態は、もはや政権を担う資格がありません。7月には参議院選挙も行われます。参議院でも少数に追い込み、政権交代など展望ある政治への道を作り出していくべき時期です。

三つ目は、世界平和を実現する声を挙げていかねばならないということです。ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルによるガザ地区への侵攻、それと関連してのアメリカが介入しての中近東地区の複雑な形での連帯支援の攻撃と報復の応酬。国連憲章に違反した形で世界の各地で人びとの命が奪われる戦闘が続発しています。第2次世界大戦終結から80年を迎える今年、その教訓と反省を生かした政治が行われていません。しかも、日本政府は、解決策のために積極的・平和的な努力をしていません。それどころか、アメリカの核の傘の下、また仮想敵国を中国や北朝鮮として「台湾有事」「北朝鮮ミサイル」などを口実に、「核抑止論」「軍備増強論」に固執し、アメリカと一体の「戦争できる国への大転換」などは強引に推し進めようとしています。「平和のうちに生存する権利」が全世界の国民にあると宣言し、戦争放棄の9条を掲げる日本国憲法を持つ日本は、その理想を実現するために、今こそ世界の平和を実現する方向へ大転換すべきです。

本定期大会では、学校現場の様々な困難さも発言されました。それらの改善のためにも、一歩ずつ前に運動を進めましょう。

「集まれば元気、語れば勇気」、そして、「仲間を増やせば歓喜」。2025年の運動とともに全力で頑張りましょう。

2025年6月28日

高知県教職員組合 第102回定期大会参加者一同